

れば、そうした問題を理解する大きな手掛りとなるでしょう。実は、この3月にすばる望遠鏡で、NGC4388の巨大電離ガスの分光観測を行いました。詳細な解析結果はまだ出でていません

が、そのデータにより電離ガスの運動や電離状態が明らかになり、その正体に迫れるものと期待しています。

お知らせ

★ 平成13年度退職者永年勤続表彰式

平成13年度国立天文台退職者永年勤続表彰式が、3月27日(水)午前11時40分から三鷹の講義室で行われ、海部台長の式辞、表彰状と記念品の授与、退職者の謝辞及び記念撮影が行われました。引き続き、台長をはじめ各退職者の所属長を交えて、約1時間の懇談がもたれました。

なお、被表彰者は以下の3名です。

管理部庶務課 小林 亮

管理部庶務課岡山地区 渡邊 峰子

技術部技術第一課 八百 洋子



★ すばるで使われたハイテク技術が発明大賞に選ばされました

財團法人日本発明振興協会と日刊工業新聞社が共催事業として実施している「第27回発明大賞」の最高賞に、すばる望遠鏡の主鏡能動支持機構でも使われた音叉式力センサーが選ばれ、株式会社新光電子（岡崎稔社長）が表彰されました。

この発明は、音叉式振動子の振動周波数が加えた力に比例して変化するという原理を利用して高精度荷重センサーとして実用化したものであり、電子式ばかりとしても商品化されています。このセンサーがすばる望遠鏡の心臓部に使われたことは、計量学界では良く知られており、受賞祝賀会では祝辞を述べた全ての来賓がそのことに触れられたのが印象的でした。

すばる望遠鏡の主鏡能動支持機構そのものについては、発明協会の平成12年度全国発明表彰恩賜発明賞を三菱電機株式会社通信機製作所が受賞されており、すばる望遠鏡の成功の鍵となった技術の受賞を、関係者として心からお喜びしたい。

(光学赤外線天文学・観測システム研究系)

教授 家 正則)